

各教科等における 「令和7年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



小学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力が育まれている。
- 人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情が育まれている。
- 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようする意志が高まっていたり、道徳的行為への身構えができたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自己を見つめる学習活動の充実

- ◇自分との関わり、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める場面を設定する。
- ◇自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできる場面を設定する。

②物事を多面的・多角的に考える学習活動の充実

- ◇多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりする場面を設定する。
- ◇物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ◇「徳島版読解力」を基に、根拠を明確にし、他者と議論する場面を設定するとともに、「徳島ICT活用モデル」を参考に、多面的・多角的な思考を促す。

③自己の生き方についての考えを深める学習活動の充実

- ◇道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めていることを強く意識させる場面を設定する。
- ◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにする。